

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年11月12日（月）

NO. 908号

本号3頁

姑息“安倍隠し”改憲は通用しない!

自民党が姑息にも「安倍隠し」の小手先の目くらましの突破で改憲を行おうとしています。自民党の下村博文党憲法改正推進本部長は3日、北海道の北斗市で開かれた党支部の研修会で講演し、改憲論議について「安倍色を払拭して……」と言い出しました。一方、すでに紹介していますように、自民党は各選挙区支部長に「共鳴する民間団体」と協力して改憲世論を喚起するよう要請する文書を出しています。自民党は、改憲に向けた地ならしを着々と進めています。

総裁選後の党役員人事で憲法改正推進本部長に就任した下村は、改憲機運を高めるための全国行脚をスタートさせています。その第1弾として、3日、北海道の北斗市で党支部の研修会で講演しました。

下村氏は、「いつも解釈改憲するのではなく、時代や環境の変化に応じて改正、修正すべきだ」と改憲の必要性を訴え、国会での議論活性化に向けて野党側と水面下で接触していることを明かしました。そして、野党には「安倍首相の下での憲法改正には賛成できないとの拒否反応がある」と述べました。



下村氏は講演後、記者団に対して、「安倍政権の下では議論したくないと思っている人が多い。自民党全体でしっかり対応しながら、『安倍色』を払拭していくことが必要だ」と話しました。「安倍色」を隠せば、国民も野党も改憲論議に乗ってくると考えているようです。

金子勝氏「そんな姑息な手は通用しませんよ」と

日刊ゲンダイの報道によると、立正大名誉教授・金子勝氏（憲法会議担当常任幹事）は、「野党を巻き込むために“安倍隠し”をもくろんでいるのですが、そんな姑息な手は通用しませんよ。改憲推進本部長に側近の下村博文氏、総務会長に腹心の加藤勝信氏、衆院憲法審の筆頭幹事に安倍首相と思想信条が近い新藤義孝氏らを起用した布陣を見るだけでも、安倍カラーは隠しようがない。そもそも、9条に自衛隊の存在を明記するなどといった『改憲4項目』も、党の総務会で了承を得たものではないのです。安倍首相の“私案”とでも呼ぶほかになく、どこからどう見ても安倍色の改憲ゴリ押しです」と。さらに、「世論調査の数字を見れば分かるように、国民は拙速な改憲を求めている。歴史に名を残したいというようなヨコシマな思惑で無理にやろうとするから、あちこちに矛盾が生じるのです」と語っています。

日本会議と二人三脚で

10月29日には、下村氏と山口泰明組織運動本部長の連名で、年内をめどに、全国に289ある選挙区支部ごとに「憲法改正推進本部」を設置するよう文書で要請しています。その文書では、「我が党の憲法改正案に共鳴する民間団体の要請に応え」「国民投票に向けた世論喚起を推進する連絡会議の設立」にも協力するよう求めています。

自民党関係者は、「ここに書かれている民間団体とは、言うまでもなく日本会議系の団体のことです。安倍首相が今年の5月3日、改憲の具体案や、2020年に新憲法施行というスケジュールを唐突にブチ上げたのも、日本会議が主導する改憲派の集会でした。首相の改憲案の“ネタ元”は日本会議だといわれている。国家の根幹をなす憲法を改正するという大事業が、一団体の意向に引きずられていいのか、という声は党内にもあります」と語っています。

連立を組む公明党からも、行政府の長である安倍が改憲に前のめりになっていることには、批判が出ています。憲法上、改憲を発議するのは立法府であり、首相は無権限だからです。公明党の山口代表も「政府は余計な口出しをしないでほしい」と苦言を呈しています。

何としても改憲を実現したい自民党は、日本会議と二人三脚で「安倍隠し」まで行って、改憲を進めようとしています。

追い詰められている自民党・改憲派!

衆院憲法審査会は8日、「野党の協力が得られず」と開催を見送りました。憲法改正を巡り、国民投票を行いやすい環境を整えるとした国民投票法改正案の今国会での成立も見通せなくなっています。国民の「憲法審査会を開くな」の運動の反映です。

国会は、2018年度補正予算が成立し、今後は外国人労働者の受け入れを拡大する入管法改正案が焦点となっています。12月10日の会期末までに成立させるためには日程の余裕が少ない中、野党は徹底審議を要求しており、政府・与党は綱渡りの国会運営を強いられています。衆院憲法審査会に自民党の憲法改正条文案を提示する環境が整う見通しも立っておらず、政府・与党内では早くも会期延長論が出始めています。

国会の各委員会は補正予算成立後、法案審議をめぐる具体的な日程協議を本格化させています。しかし、憲法審査会は進展がありませんでした。自民党の憲法改正推進本部関係者は「立憲民主党が開催に抵抗したため」と発言しています。憲法審査会の運営は与野党強調を重視する「伝統」「ルール」があり、自民党も慎重に対応しています。また、「強硬に進めれば世論が離れていく」との懸念もあるようです。



自民党は改憲案を憲法審査会に示す前に、まず、継続となっ

ている国民投票法改正案を成立させたい考えです。しかし、同改正案は先の国会で趣旨説明まで行ったものの、「衆参両院国会で可決するには3週間必要」とされています。自民党の希望通り15日に憲法審査会を開催しても、憲法審査会は衆参とも1週間に1回しかなく、成立させようとする12月10日の会期末ぎりぎりです。

頑張れ!野党 憲法審査会を開催させるな!

立憲民主党は安倍内閣の下での改憲に反対する立場を崩しておらず、当面は憲法審査会の日程を調整する幹事懇談会の開催に応じない構えです。国民投票法の改正案をまとめた国民民主党は、改憲論議に前向きな姿勢を見せる一方で、「与党に取り込まれたと見られかねない」とする声もあり、様子見を貫いています。

なお、改憲に積極的な維新の会は、「議論もしないのは国会の怠慢だ」と、野党の対応を批判しています。

本部町、港使用を不受理

辺野古埋め立て土砂搬入反対!

辺野古新基地建設を巡り、本部港塩川地区で埋め立てに使用する土砂などを搬出していた業者による護岸の使用許可申請を本部町は1日、受理しませんでした。台風で護岸が破損しているため、新規の船の受け入れができないことが理由です。同港管理者の県と協議し判断しました。辺野古への海上からの土砂搬出ができず、新基地建設工事に伴う埋め立ての進捗に、大きな影響を与える可能性が出ています。

平和市民連絡会の北上田毅氏は沖縄防衛局の埋め立て承認願書で、辺野古側の埋め立てに使う土砂は本部町と国頭村から海上搬出することが定められていることを指摘。「国頭村には土砂搬出が可能な港はなく、実質的に塩川地区のみが搬出可能な港だ。そこが使えないと埋め立てはできない」と強調しました。

町によると、護岸が破損して以後、新規の船の受け入れを一切受け付けていません。復旧後の受け入れについて町は「港の状況を踏まえ、県と協議の上、判断したい」とし、復旧の時期は未定です。本部港は県が管理する港ですが、本部町が岸壁と荷さばき地の使用許可の事務を受託しています。

業者は2017年10月に使用を許可され、同年12月から辺野古へ石材を搬出し、今年7月下旬からは埋め立てに用いるとみられる土砂を搬出していました。しかし岸壁の許可が9月末で切れたため今回、再申請したものです。

県によると、9月に沖縄本島地方に接近した台風24号の影響で、同地区の六つある岸壁のうち三つの岸壁が使えない状態になり、被災した岸壁を使用することで被害が拡大することを懸念し、申請を受理しなかったとしています。県の担当者は「辺野古関連であってもなくても、物理的にこれ以上受け入れられない状態だ」と説明しました。

業者は、県の埋め立て承認撤回を受け9月上旬、塩川地区からいったん搬出した土砂を再び同地区に荷揚げさせていました。



各地のとくくみ

長崎 新日本婦人の会長崎支部と長崎のうたごえ協議会 22人で署名行動

新日本婦人の会長崎支部と長崎のうたごえ協議会は7日、長崎市内の繁華街で「安倍9条改憲NO!」3000万人署名にとりくみました。22人が参加し、1時間で署名173人分が寄せられました。

参加者は「軍事ではなく、憲法いかし命を優先に」と書かれたビラを配布し、うたごえ協議会の演奏を響かせながら、署名を呼びかけました。

安倍さんには反対という女性(75)は、戦後の苦勞を語り、「沖縄出身の友人がいるが、戦争で大変な思いをしたと聞いた。そんな沖縄にどうしていまだに基地が集中するのか。沖縄ばかりに苦勞を強いているのはおかしい」と憤り署名しました。64歳の女性は、以前署名せずに素通りしてしまいが後悔していたと話、「いつもニュースを見て、夫と二人で憲法だけは守ってほしいと話している。夫の父は、戦争から帰ってきた直後に暴力的になってしまったらしい。戦争は人間を変えてしまう。日本の子どもたちにはそんな思いをさせたくない」と語りました。

岐阜県から修学旅行に訪れた高校生や小さな子どもを連れた母親なども署名していました。

青森 11団体で国会前行動に連帯する市民集会開催!

日本国憲法が公布されてから72年目を迎えた3日、青森県九の会など11団体は、改憲発議阻止の国会前行動に連帯する市民集会を青森市の青い森公園で開きました。

青空の広がる下での集会には100人余が参加し、3000万人署名に取り組んでいる市民団体、日本共産党の吉俣洋典議候補、社民党連盟の三上武志代表、国民民主党県連の奈良祥孝幹事長、前衆院議員の升田世喜男氏が連帯あいさつしました。

吉俣氏は「憲法を守れない安倍首相に憲法を語る資格はありません」と強調し、「国政、地方で憲法を生かす政治実現へともにがんばりましょう」と力強く呼びかけました。

集会後、市内中心街をデモ行進する参加者の姿に「がんばれ」と手を振る親子連れなど、市民の激励が寄せられました。

街頭からデモを見ていた男性は(78)は、「改憲よりも森友・加計、文書改ざんなど未解決の真相究明が先。本当に安倍さんは首相にふさわしくない。改憲阻止へ野党は結束してほしい」と語りました。

安倍9条改憲NO!
辺野古新基地建設は断念を!
安倍政権退陣!
11.19 国会議員会館前行動

11月19日 月 18:30～第2議員会館前を中心に

主催：安倍9条改憲NO!全国市民アクション実行委員会
戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会

19
日行動